

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 755 号 令和 6 年 4 月

目次

○山口大学共同獣医学部獣医学科卒業証書授与式出席報告（会長理事）	1
○令和 5 年度第 2 回小動物講習会参加報告（宇部支部 網本宏和先生）	3
○第 65 回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催（県庁支部 大山ゆき先生）	4
○令和 5 年度第 5 回理事会開催報告（常務理事）	5
○美祢支部臨時総会について（山口支部 中谷幸穂先生）	6
○リレー随筆（山口支部 小森大幹先生）	6
○盲導犬ユーザーの受け入れについて（山口支部 中間實徳先生）	7
○山口獣医学雑誌第 50 号（記念号）の刊行について（常務理事）	7
○会員の異動	8
○マイクチップの登録手数料が令和 6 年 4 月から変更されました	10
○事務局だより	10
○2024 年度日本獣医麻酔外科学会学術集会開催案内	11
○ヒナを拾わないで	12

令和 5 年度山口大学共同獣医学部獣医学科卒業証書授与式出席報告 ＝ 獣医学課程優等卒業生へ表彰状授与 ＝

会長理事 田 中 尚 秋

曇交じりの暴風雨が荒れ狂った前々日とうって変わり、温かい陽射しに満ちた、春らしいうらかな天気となった令和 6 年 3 月 22 日(金)、午後 2 時から山口大学共同獣医学部獣医学科棟 1 階会議室（山口市吉田）において標記卒業証書授与式が行われ、山口大学共同獣医学部同窓会（青山会）の深町輝康会長と共に参列させていただきましたので報告します。

コロナ禍で一昨年まで外部からの出席は控えられていましたが、昨年度に続き今年度も対面開催となりました。本年度の卒業生は 27 名でしたが、既に本国に帰られた留学生や所用等のため出席できなかった学生も数名あり、学生生活最後の記念式典に出席できず残念であったろうと慮った次第です。

この式典の中で、度会雅久学部長から卒業証書授与、学部長挨拶があり、続いて令和 5 年度学生表彰：①学長表彰、②学部長表彰、③同窓会長表彰、④（公社）日本獣医師会会長表彰、⑤（公社）山口県獣医師会会長表彰、⑥学科長表彰等が行われました。今回、（公社）日本獣医師会会長表彰を受賞されたのは西中間菜穂さん、本会会長表彰を受賞されたのは光永早紀さんでありました。ご両名には、小職から賞状と記念品をお渡ししましたが、お二人からは次のとおり感

謝のことばをお寄せいただきました。優秀な学業成績で大学生活を終えられたお二方に深く敬意を表します。

小職から卒業生並びにご家族の皆さんにあて祝意を伝え、学生の皆さんへは、今後の自分自身の人生を楽しんでいただきたいこと、幸せな人生を歩んでいただきたいこと、周りから「（獣医師の）くせに」とか言われることなく「（獣医師）だけあって」と言われるよう心掛けてほしいこと、等を申し述べさせていただきました。

さらに、昨年同様、同じ獣医師仲間として魅力のある獣医界を作るために協力していただきたいこと、自分が、これから獣医師になる後進、新獣医師のため、獣医界のために何が出来るか、そういうことを考えていただきたいこと等を訴え、現在ある全国 55 地方獣医師会に、関与されるそれぞれの地域で獣医師会に加入していただくよう願いました。

最後に山口大学共同獣医学部の、今後ますますのご発展と卒業生並びにご臨席の皆様方のご健勝とご活躍をお祈りして私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

今年は好天に恵まれたので、羽織袴で正装した女子学生も多く、あちらこちらで談笑したり記念撮影した

りしている光景も多く見られ、華やかさに満ちていたように思います。すべてが卒業生の前途を祝福しているようで、私まで幸せな気持ちになりました。ご卒業の皆様、本当におめでとうございませう！

◆西中間菜穂さん <日本獣医師会会長表彰受賞>

この度は名誉ある日本獣医師会会長賞を授与いただき、大変光栄に思います。時には大変だった学生生活も同期に支えられ、無事卒業を迎えることが出来ました。皆が元気でそれぞれの道で活躍し、またどこかで再会できることを願っています。

所属の獣医公衆衛生学研究室では様々なテーマの研究に携わらせていただき、生化学的な実験手技を学ぶだけでなく、仮説を立て実証に向けて試行錯誤する楽しさを知ることができました。ご指導いただいた先生方やお世話になった先輩方にもこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

本学で6年間獣医師として必要な知識を広く学んだことで、獣医師の持つ社会的役割について入学当初と考えが大きく変わった部分もありました。中でも動物だけでなく、動物を通じて人の健康に寄与するという点に興味を持ち、ご縁あって卒業後は安全性試験に従事する事となりました。これから自分の進む道での専門性を高め、獣医師として社会に貢献出来るよう精進します。

◆光永早紀さん <山口県獣医師会会長表彰受賞>

この度は名誉ある山口県獣医師会会長賞を授与いただき、大変光栄に思います。山口大学共同獣医学部での6年間は、カリキュラムに追われながらも、毎日新しい知識を得られる楽しさを噛みしめながら講義や実習に取り組み、充実した日々を送ることができました。特に実習は、仲間と切磋琢磨しながら知識を定着させることができる貴重な経験の場となりました。

私は様々な分野の中でも特に動物の感染症に興味を持ち、所属の獣医微生物学研究室では、県内に生息

する野生動物のサンプルからのウイルス検出を試みたり、組み換えウイルスを作製する基礎を学んだりするなど、大変興味深い経験ができました。自ら手を動かして実験の成果を得られた時には、これまでにないほどの達成感を感じました。卒業後は大学院に進学し、獣医領域の発展に貢献できるような成果をあげることを目標に、今以上に研究活動に邁進してまいります。

最後に、講義や実習で私たちをご指導下さいました先生方、学外実習でお世話になった方々、学生生活を支援して下さいました大学の方々に、この場をお借りして深くお礼申し上げます。



左から 山口大学共同獣医学部長 度会雅久先生
日本獣医師会会長表彰を受賞された西中間菜穂さん
山口県獣医師会会長表彰を受賞された光永早紀さん
本会 田中尚秋会長



令和5年度第2回小動物講習会参加報告

宇部厚狭支部 網本宏和

(アマカペットクリニック)

2024年2月25日に山口市の防長苑にて第2回小動物講習会が枝村一弥先生（日本大学生物資源科学部獣医学科外科学教室教授）をお招きして開催されました。講演のテーマは『犬と猫の健康寿命の延長のために動物病院でできる新たな試み』でした。

午前中は健康寿命に注目した運動器疾患に対する新たな治療戦略をお話ししていただきました。医学領域では健康寿命（日常生活に支障のない期間）をいかに長くするかという課題に取り組まれており、運動器障害をより早い段階で発見し治療介入しているとのことでした。一方で、犬や猫の運動器障害は跛行などの明確な症状が出てから病院に来院されることがほとんどです。実際には関節炎に罹患する患者は跛行などの明確な症状を示す前に、『散歩に行きたがらない』、『あまり動かなくなる』、『段差を登るのを嫌がる』などの症状が出てくることを教えていただきました。また、猫では12歳以上の猫の90%にX線検査にて骨関節炎が見られ、臨床兆候を有するものは40%程度というデータを示されました。犬と猫でも健康寿命を伸ばすために運動器検診をすることが重要であると強調されていました。私はこの考え方にとても共感し、運動器検診を診療に取り入れてみようと思いました。

次に運動器疾患の治療戦略の立て方を説明され、痛みの生じている部位、急性疼痛なのか慢性疼痛なのかなどを明確にして体重管理、運動と環境改善、疼痛管理を中心に行うとのことでした。鎮痛剤やサプリメントはたくさんの種類がありますが、痛みが発生している病態を考えた使い分け方はとても興味深かったです。COAST Development Groupが提唱している骨関節炎に関するガイドラインは臨床に則し

た良いガイドラインだと感じました。

午後は運動器疾患の診断手順について講演していただきました。まず、整形外科で出てくる内転・外転・内旋・外旋・回内・回外などの用語を先生ご自身の体を使いながら教えていただきました。次に問診のお話ではとても多くの問診項目がありましたが、問診の段階で可能性の高い疾患を洗い出すには効率的な問診表であると感じました。そして、X線検査をする前には立ち姿、座っている姿勢などの視診、歩行検査や触診などをして整形外科疾患なのか神経疾患なのかをはっきりとさせ、異常な部位の特定の仕方を教えていただきました。触診では前肢と後肢に分けて詳しく説明され、各疾患に特有の触診方法や異常の検出方法のコツについて解説していただきました。

最後の講演である運動器疾患の画像診断では、X線の撮影/読影方法や超音波検査の実施方法を詳しく説明していただきました。適切なX線撮影から得られた正常画像と異常画像を比較して、正常解剖のおさらいから異常が見られる部位の特徴や腫瘍性疾患などの絶対に見逃してはならない所見について解説していただきとても勉強になりました。また、腱や靭帯の病変に対しては積極的に超音波検査を実施し、特徴的な変化についてもお話ししていただきとても興味深かったです。

今回の講習会を受講して運動器疾患に罹患している犬や猫は非常に多く、早期発見治療して健康寿命を長くすることの重要性を再認識することができました。一次診療施設で明日から実践できる内容も多く、講習会で学んだ内容を実践したいと思います。



講演される枝村一弥先生



挨拶される田中尚秋会長



会場の様子



ランチョンセミナーを実施した物産アニマルヘルス(株)の製品紹介

第65回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催

県庁支部 大山 ゆき

(山口県農林水産部畜産振興課)

令和6年3月18日(月)、山口県庁において、第65回山口県家畜保健衛生業績発表会を開催しました。

本発表会は、家畜保健衛生所(以下、家保)等の職員が日頃の業務の成果を発表する場であり、中国四国ブロック家畜保健衛生業績発表会で発表する優秀な3演題を選出する場でもあります。

昨年度までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、規模の縮小やリモート形式での開催を余儀なくされましたが、今年度からはコロナ前と同様に広く関係者を参集したうえで開催することができました。

中国四国ブロックへは、全10演題の中から次の3演題が選出されました(発表順に記載)。

- 1 肉用牛法人農場における生産性向上の取組
(北部家保 小山大地)
- 2 交雑種子牛の鉛中毒事例
(中部家保 山下太郎)
- 3 *Enterococcus cecorum* を原因とするブロイラーの化膿性脊椎炎(西部家保 福岡恒)

なお、各演題の内容については、農林水産省のホームページに抄録が掲載される予定ですので、ぜひ御覧ください。

最後になりましたが、御助言をいただきました皆様には、それぞれの専門的なお立場から、適切かつ貴重な御意見等をいただき、この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

関係者一同、本発表会の成果を今後の業務に活用し、本県畜産業の発展に努めてまいります。

1 肉用牛法人農場における生産性向上の取組：山口県北部家保 小山大地、鈴永真士、小杉真樹

管内の無角和種繁殖センターは、人手不足による繁殖や増体の成績不振が課題であり、経営改善支援を実施。子牛の生産性向上及び子牛事故率低下、肥育牛増体成績向上、山口型放牧の推進、担い手確保の取組を支援。子牛生産性は定期的な繁殖検診実施により平成30年度の67.6%から令和4年度の78.5%に改善。年間子牛生産頭数は平成30年度の33頭から令和4年度の43頭に増加。子牛事故率低下のため牛舎消毒指導やワクチン接種を実施。肥育牛増体成績向上のため、毎月体重測定を実施し、群管理や出荷見極めにより平均出荷体重は目標値の600kgにほぼ到達。山口型放牧の取組拡大による集落営農法人等との耕

畜連携を図り、放牧延べ頭数と集落営農法人の放牧面積はどちらも増加。担い手の確保のため、地域おこし協力隊員を起用し農場管理者に育成。作業人員は1人から3名に増員。今後はこれらの取組を継続するとともに、無角和種らしい肉質向上を目指した飼料設計の改良が課題。

2 交雑種子牛の鉛中毒事例：山口県中部家保 山下太郎、吉本侑里

2023年8月、約60頭を飼養する乳用牛農家において、20日齢の交雑種の雄子牛1頭が旋回運動、痙攣を起こし死亡。死亡子牛は柵で囲われた自作の房で飼養され、柵のつなぎ目に漁業関係者から譲り受けたロープを使用。その房では、同年6月にも2か月齢の子牛1頭が同様の症状で死亡。剖検では、第四胃内にロープの切れ端とみられる異物を確認。腎臓では好酸性核内封入体を伴う尿細管上皮細胞の変性壊死を確認。封入体は抗酸菌染色で陽性。鉛濃度は死亡子牛の肝臓、腎臓、血液でそれぞれ51ppm、116ppm、2.73ppmと非常に高値、同居牛の血液で0.25~0.70ppmと高値。以上の結果から鉛中毒と診断。鉛を含む漁業用ロープを舐食したことが原因と考えられたため、飼養者に対し、ロープの除去を指示し、注意喚起を実施。中毒疾病についても念頭に置き、病性鑑定を実施する必要があることを再認識。

3 *Enterococcus cecorum* を原因とするブロイラーの化膿性脊椎炎：山口県西部家保 福岡恒

管内複数の肉用養鶏場において脚弱淘汰鶏が増加。脚弱発生は22農場まで波及。経営者が異なる3農場で病性鑑定を実施。剖検ではA、B農場で心膜炎、第六胸椎付近の椎体膿瘍等を確認。C農場は著変なし。病理組織学的検査ではA農場で化膿性心外膜炎、化膿性脊椎炎等、C農場で化膿性腱鞘炎等を確認。細菌学的検査ではA農場で心臓、腓腹筋腱等、B農場で心臓、脊椎病変部等、C農場で腎臓から*Enterococcus cecorum* (EC) を分離。分離されたECは全農場でアンピシリン感受性を示す。A農場で脊椎膿瘍、EC感染症(敗血症)、B農場でECを原因とする化膿性脊椎炎、C農場で細菌感染による脚弱と診断。飼養衛生管理及び薬剤適正使用の指導により早期発見、早期治療が農場に浸透。治療効果が認められ、脚弱等の発生は減少傾向。パルスフィールドゲル電気泳動解析の結果、2農場間で疫学的な関連性が示唆されたが、ECの発生产原因や農場への侵入経路は特定できず。

令和5年度第5回理事会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和6年3月14日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和5年度第5回理事会が開催されました。

理事13名中10名、監事3名中2名に出席いただき、田中尚秋会長から、平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の9件の議案について審議していただきました。

第1号議案 令和5年度事業実施状況について

(報告事項)

第2号議案 令和6年度事業計画及び事業予算(案)

について(承認事項)

第3号議案 令和6年度会費徴収(案)について

(承認事項)

第4号議案 資金調達及び設備投資に係る見込み(案)

について(承認事項)

第5号議案 減価償却引当資産及び会館取得資産の

取崩措置について(承認事項)

第6号議案 狂犬病予防事務に係る事故補償対策準

備資金の取崩措置について(承認事項)

第7号議案 令和6年度総会開催について

(承認事項)

第8号議案 狂犬病予防注射指定獣医師の新規指定

及び解除について(報告事項)

第9号議案 役員報酬規約の一部改正について

(承認事項)

第1号議案の審議では、年度後半の事業実施状況について報告しました。説明内容は、2月に開催された第2回支部長会会議と同様(令和6年3月号会報掲載済み)ですので省略します。

なお、新たな県獣会館の取得に関して、2月に建築事業者と建物請負契約を締結したことを報告しました。

第2号議案の審議では、令和6年度事業計画(案)と新獣医師会館取得経費を含めた予算(案)について説明しました。主な説明内容は次のとおり。

- ・県学会を8月25日(日)に防長苑(山口市)で開催する予定
- ・獣医学術中国地区学会は、10月19日(土)～20日(日)

に、島根県松江市で開催される予定

- ・日本獣医師会獣医学術学会年次大会は、令和7年1月に宮城県仙台市で開催される予定
- ・講習会の開催等、その他の事業は、例年どおり実施する予定
- ・新たな県獣会館の取得に向けたスケジュールは、6月に仮事務所への移転、7月に現会館の解体工事着工、8月に新会館建築工事着工、令和7年2月に工事が完了し、引き渡しされる予定

第2号議案の審議の中で、定年退職後の県職員が再就職している関係団体に比べ、本会常務理事の報酬等の額が少ないことから、常務理事の報酬等の見直しについて協議が行われました。

この結果、常務理事の役員手当・月額報酬を増額する第9号議案(役員報酬規約の一部改正)が追加され、承認された上で、令和6年度事業計画(案)及び令和6年度予算(案)が承認されました。

なお、常務理事の報酬等については、今後も審議を継続することとされました。

第3号議案では、令和6年度の本会会費を今年度と同額とすることが承認されました。

第4号議案では、令和6年度に新会館を取得する設備投資を行うことが、また、第5号議案では、会館取得に関する「減価償却引当資産」と「会館取得資金」を取り崩すことが承認されました。

第6号議案では、狂犬病予防注射事業に係る保険、狂犬病予防注射啓発ポスター、支部狂犬病予防事業推進費に充てるため、狂犬病予防事務に係る事故補償対策準備資金の一部を取り崩すことが承認されました。

第7号議案では、令和6年度総会を次の日程で開催することが承認されました。

- ・開催期日：令和6年6月9日(日)午後2時～
- ・開催場所：防長苑(山口市熊野町)

第8号議案では、狂犬病予防注射実施指定獣医師の新規指定と指定の解除について報告しました。(該当の先生は、3月号会報に掲載しています)

最後に、白永伸行副会長の挨拶で閉会となりました。

美祿支部臨時総会について

山口支部 中谷幸穂
(農林総合技術センター畜産技術部)

先日(3月14日)、慣れ親しんだ美祿市勤労福祉会館にて美祿支部の臨時総会が行われました。本支部は新年度から宇部支部と統合することが決まっており、事実上美祿支部解散総会となりました。

現会員16名のうち、吉村正道支部長をはじめ7名と、田中尚秋県獣会長が来賓として参加されました。総会は事業報告、決算報告と短時間で終わりましたが、今後の異動先の支部での獣医師会活動の話もさることながら、美祿支部がにぎやかだった頃の思い出話や会員の健康の話、長期間にわたって役員をされてきた先生方の苦労話など話題は尽きることなく、大変別れがたい会となりました。現会員の中でも高齢のため退会の話も伺いました。

これまでご活躍されてきた先生方のご意志を受け継ぎ、今後の異動先の支部においても会の活動を盛り上げていきたいと思っております。



リレー随筆

山口県での新生活

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今回、職場の先輩である斎藤さんからバトンを渡され、初めて執筆をさせていただきます。私は平成9年に福岡県で生まれ、18歳になるまで北九州市で育ちました。その後、青森県にある北里大学を経て、地元近くのここ山口県で就職いたしました。令和4年4月から山口県で働かせてもらって、もう2年が経とうとしていることに驚愕しております。社会人になると時間の流れが加速するという先輩方の話は本当のようで、あっという間の2年間でした。

幸いにも職場の先輩や上司に恵まれ、少しずつではありますが、仕事もこなせることが増え、充実した社会人生活を過ごせています。

学生の頃はあまり山口県に遊びに行くことは無く、就職し、住み始めてから山口県の街並みの雰囲気を感じているところですが、最初に感じたことは、「住みやすい所」でした。交通の便が良く、車一台あれば山口県内のどの場所でもストレスなく移動できますし、物価も高くなく、美味しいご飯が食べれるところもたくさんありました。

やはり、その街に住むにおいて、美味しい食があるかどうかは、私個人としては非常に重要なことで、ここ最近のブームは「瓦そば」です。幼いころに食

山口支部 小森大幹
(農林総合技術センター畜産事業部)

べた記憶はあるのですが、改めて瓦そばを食べにいった際に、ドハマリしてしまいました。瓦に面したそばはおこげのようにパリパリとした食感で楽しめ、一緒に食べるうな丼も大変美味でした。



ランチには少しお高めですので、働き始めてまだ貯金も乏しい私では毎日のように食べることは出来ませんが、仕事で疲れた週末に時々食べに行くと、また来週から頑張ろうという気持ちになれるというのだから、食というのは凄いと感じるところです。

今後も、瓦そばを不自由なく食べられるように仕事を頑張ろうと思っておりますので、まだまだ若輩者ですが、どうぞよろしくお願い致します。

写真は今年の夏に大学の友達に会いに行った際の、東北三大祭りである「ねぶた祭り」の写真です。

次回のリレー随筆は仲良くさせていただいている先輩の萩農林水産事務所畜産部 横山明宏さんにバトンタッチします。

「盲導犬ユーザーの受け入れについて」

山口支部 中間 實徳

(山口大学名誉教授・東亜大学名誉教授)

去る2月20日(火)に山口市湯田地域交流センターで、人権学習大会があり、標記の講演があった。講師は日本盲導犬協会の原水穂さんで、盲導犬を伴っての実技も披露された。

日本の盲導犬の実働頭数は836頭(2023年4月1日現在)で、日本の盲導犬育成団体は11団体ある。同協会の主な活動は、①盲導犬の育成事業、②視覚障害リハビリテーション、③普及推進活動である。盲導犬の役割は、①道の角を教える、②段差を教える、③障害物を教える、の3つである。盲導犬への接し方は、盲導犬の気を引かないようにすることで、①犬に触らない、②声を掛けない、③犬の目を見つめない、④食べ物を与えないことである。

身体障害者補助犬とは、①盲導犬(全国で836頭、山口県には15頭)、介助犬(全国で57頭、山口県は0)、聴導犬(全国で56頭、山口県は0)の事である。身体障害者補助犬法とは、身体障害者補助犬を連れた身体障害者の自立と社会参加を促進するための法律であり、①使用者の義務(健康衛生管理、行動管理、表示の義務)、②育成団体の義務(良質な補助犬の育成、必要に応じた再訓練)、③社会での義務(補助犬同伴での施設利用を受け入れる)である。ユーザーの義務としては、①盲導犬であることが分かる表示を行う、②健康・衛生の管理、③行動管理の義務がある。社会の義務としては、補助犬の

同伴を受け入れる公共施設の確立で、

①交通機関での受け入れ義務、②不特定多数の者が利用する施設での受け入れ義務、③各

自治体に相談窓口を設置、④民間企業の職場への受け入れ義務がある。障害者差別解消法では、①不当な差別的取り扱いの禁止、②合理的配慮の提供(民間事業者では2024年4月から義務化)が必要となる。視覚障害について、日本の視覚障害者数は約31万人で、見えにくい(ロービジョン)の区分では、①中心暗転(中心部が見えない)、②視野狭窄(特定の部分しか見えない)、③羞明・白濁(眩しさを強く感じる)がある。視覚障害者の案内では、①声かけ、②手引き歩行等を行う。

最後に、公益社団法人・日本盲導犬協会では、個別相談や資料配布を行っているので、いつでも連絡とって戴きたいとの事であった。

連絡法；①You Tube で日本盲導犬協会と入れる。

②フリーダイヤル；0800-919-3911

③ホームページ；www.moudouken.net



山口獣医学雑誌第50号(記念号)の刊行について

常務理事 酒井 理

山口獣医学雑誌第50号(記念号)を刊行し、本会ホームページに掲載しましたのでお知らせします。投稿していただいた先生方、編集に協力していただいた山口獣医学雑誌編集委員の皆様に、感謝申し上げます。

《掲載論文等》

特別企画

- 山口獣医学雑誌第50号発刊記念座談会

総説

- 学会機関誌第50号の発刊を祝して
山縣 宏
- アジア獣医師会連合の獣医学教育改善への取組について
佐藤晃一

原著

- 山口県の飼養豚における豚熱ワクチン接種による豚熱ウイルス中和抗体価の調査
鹿島貴朗、田代久宗

症例

- 放射線治療で症状が寛解した起源不明髄膜脳炎の犬の1例
中市統三、高田知永子、根本有希、伊藤晴倫、砂原 央、板本和仁、谷 健二
- 右後肢体重負重面の再建を行なった犬の1例
原口友也、伊藤嵩人、西堀瑞穂、脇本美保、板本朗代、沖汐 恵、新田直正

2023年獣医学術中国地区学会賞受賞演題

- 大学キャンパス内の野良猫数管理において奏功した事例
前原光主穂、石田千穂、西本美晴、福永茅広、渡邊健太

会員の異動

春の人事異動により次のとおり会員が異動されました。

1. 山口県職員

退職者（令和6年3月31日付け）

- 西 藤 裕一郎（環境生活部 審議監）
- 吉 母 修 栄（動物愛護センター 所長）
- 西 本 清 仁（下関農林水産事務所畜産部 主査）
- 弘 中 健 人（下関農林水産事務所畜産部 主任技師）

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
環境生活部	環境政策課	三 保 裕 和	環境アセスメント班 主査	生活衛生課 乳肉衛生・動物愛護班 主査
	生活衛生課	木 村 雅 美	乳肉衛生・動物愛護班 主幹	萩健康福祉センター保健環境部 主幹
		岡 田 明 子	乳肉衛生・動物愛護班 主任	生活衛生課 乳肉衛生・動物愛護班 主任技師
健康福祉部	岩国健康福祉センター	大 山 昌 志	保健環境部食肉検査課 主査	長門健康福祉センター保健環境部 副部長
	山口健康福祉センター	堀 切 裕 子	山口保健環境部 主幹	山口健康福祉センター防府保健部 食品衛生課 課長
		山 縣 愛	山口保健環境部 生活環境課 課長	動物愛護センター 指導課 課長
		柳 谷 泰 夫	防府保健部食品衛生課 課長	長門健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
		中 川 仁 志	防府保健部食品衛生課 主査	岩国健康福祉センター保健環境部 食肉検査課 主査
	宇部健康福祉センター	末 永 昌 美	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	山口健康福祉センター防府保健部 食品衛生課 主査
		竹 内 康 人	保健環境部生活環境課 環境指導班 技師	山口健康福祉センター防府保健部 食品衛生課 技師
	長門健康福祉センター	堀 切 裕 治	保健環境部 副部長	宇部健康福祉センター保健環境部 主幹
	萩健康福祉センター	三 好 桃 子	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	山口健康福祉センター山口保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
	動物愛護センター	野 村 恭 晴	所長	萩健康福祉センター保健環境部 副部長
		川 崎 由 紀 子	指導課 課長	宇部健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
	環境保健センター	浅 沼 康 之	保健科学部 専門研究員	山口健康福祉センター山口保健環境部 試験検査課 主任

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
畜産振興課		古 谷 知 広	調整監	生産班長
		中 谷 英 嗣	飼料・衛生班 主幹	山口農林水産事務所畜産部 病性鑑定室 主査
		吉 本 侑 里	生産班 主任	山口農林水産事務所畜産部 保健防疫課 主任技師
柳井農林水産事務所		小 南 直 司	畜産部副部長兼畜産振興課長	柳井農林水産事務所畜産部畜産振興課長兼岩国農林水産事務所畜産部畜産振興課長兼周南農林水産事務所畜産部畜産振興課長
		柿 原 新	畜産部 保健防疫課 課長	畜産部 保健防疫課 主査
		田 代 久 宗	畜産部 保健防疫課 主任	山口農林水産事務所畜産部 病性鑑定室 主任
		坂 田 芳 則	畜産部 保健防疫課 主任	山口農林水産事務所畜産部 保健防疫課 主任
山口農林水産事務所		柳 澤 郁 成	畜産部長兼美祢農林水産事務所畜産部長	畜産部長兼美祢農林水産事務所畜産部長兼萩農林水産事務所畜産部長
		稲 吉 洋 裕	畜産部副部長兼畜産振興課長兼美祢農林水産事務所畜産部畜産振興課長	畜産振興課 飼料・衛生班 主幹
		遠 藤 泰 治	畜産部 病性鑑定室 主任	畜産部 病性鑑定室 主任技師
		大岩本 拓 也	畜産部 病性鑑定室 主任	畜産部 病性鑑定室 主任技師
萩農林水産事務所		伊 藤 博 志	畜産部 部長	山口農林水産事務所畜産副部長兼畜産振興課長兼美祢農林水産事務所畜産部畜産振興課長
		古 澤 剛	畜産部副部長兼畜産振興課長	柳井農林水産事務所畜産部保健防疫課長
下関農林事務所		松 延 佐知子	畜産部畜産振興課主査	農林総合技術センター 畜産技術部 部長
		村 田 希	畜産部畜産振興課主査兼長門農林水産事務所畜産部勤務	萩農林水産事務所畜産部 保健防疫課長
農林総合技術センター		小 川 賀 雄	畜産技術部長兼家畜改良研究室長	畜産振興課 課長

2. 山口県農業共済組合職員

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈旧所属〉
中部地区家畜診療所		壹 岐 眞 帆	新規採用職員
西部地区家畜診療所		温 品 彰一郎	中部地区家畜診療所
		香 川 航 輝	新規採用職員

お知らせ

マイクロチップの登録手数料が令和6年4月から変更されました

令和6年4月1日に、動物の愛護及び管理に関する法律施行令の一部を改正する政令が施行され、登録等に係る手数料が変更となりました。令和6年4月1日以降の新しい手数料は次のとおりです。

■オンラインでの手続

手 続	手数料
マイクロチップ情報の登録	400円(300円)
所有者の変更登録	400円(300円)
登録証明書の再交付	300円(200円)

※括弧内は従前の手数料

■紙での手続

手 続	手数料
マイクロチップ情報の登録	1,400円(1,000円)
所有者の変更登録	1,400円(1,000円)
登録証明書の再交付	1,300円(700円)

※括弧内は従前の手数料

会員異動報告について

人事異動等で、会員の所属・住所等の変更があった場合は、すみやかに所属支部事務局に「会員異動通知書」を提出してください。手続きが遅れると、「日本獣医師会雑誌」をはじめ、(公社)日本獣医師会や本会からの通知等が届かなくなりますので、よろしくお願ひします。

※様式は本会ホームページ(各種様式)に掲載しています。

今後の主な行事(予定)

4月4日	・中国地区獣医師会連合会総会(米子市)	5月8日	・岩柳支部総会
4月6日	・熊毛支部総会(光市)	5月9日	・第1回理事会(県獣会館)
4月22日	・県庁支部総会	5月9日	・防府支部総会・山口支部総会
4月26日	・畜産経営総合対策協議会(県庁)	5月10日	・宇部支部総会・長北支部総会
4月27日	・下関支部総会		・豊浦支部総会
5月1日	・事業監査(県獣会館)	5月11日	・徳山支部総会

事務局だより

3月14日	・第5回理事会(県獣会館)	3月22日	・山口大学卒業証書授与式(山大)
3月14日	・美祢支部臨時総会(美祢市)	3月26日	・会報編集委員会(県獣会館)
3月18日	・家畜保健衛生業績発表会(県庁)	14日・28日	事業推進会議
3月19日	・中国地区獣医師会連合会監査(県獣会館)		
3月21日	・動物愛護管理推進協議会(県庁)		

次回編集委員会 4月23日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第755号 令和6年4月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話(083)972-1174 FAX(083)972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

2024年度

第108回

日本獣医麻酔外科学会 学術集会

大会長
望月学 (東京大学)



2024/6.21 (FRI) ▶ 6.23 (SUN)

会場 大宮ソニックシティ

まなぶはまねぶ

● 同時開催 ●



第24回 日本獣医内視鏡外科学会

大会長 江原郁也 (ルカ動物医療センター)

内容 シンポジウム、技術認定講習会



第1回 動物麻酔基礎技能認定医 筆記試験

6/21 [金] 16:00~17:00

演題募集

演題登録期間

2024年 2月1日 [木] ▶ 4月3日 [水]

一般演題

<https://www.jsvas.net/ezm/2024-108/ippanendai.html>



演題の採択は日本獣医麻酔外科学会倫理委員会が審査の上、決定致します。日程*のご案内は4月下旬頃を予定しています。 *6月22日(土)または23日(日)

レジデントフォーラム

<https://www.jsvas.net/ezm/2024-108/residentforum.html>



本フォーラムは、小動物外科専門医を養成するための研修プログラムを受けているレジデントのための発表会です。

レジデントによる若手獣医師のためのBasicセミナー

<https://www.jsvas.net/ezm/2024-108/basic.html>



本セミナーは、専門医を目指すレジデントに教育講演の機会を設けることを目的としています。

Program

基調講演
特別企画
教育講演

リフレッシュコース
シンポジウム

パネルディスカッション
症例検討会

☺ 会場内に託児所を設けます。ご利用希望の方は事務局までご連絡下さい。

Access

JR大宮駅 西口 歩行者デッキにて直結 徒歩3分
<https://www.sonic-city.or.jp/access.html>



お問い合わせ 一般社団法人日本獣医麻酔外科学会 学術集會事務局

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19 TEL : 03-5918-8070 FAX : 03-5918-8080

E-mail : online@jsvas.net URL : <https://www.jsvas.net/>

👉 見つけてもそのままに

ひろ ヒナを拾わないで!!

近くには
親鳥がいるから
だいじょうぶ。



スズメのヒナ

みまもって、
野鳥の
子そだて

ヒナを見つけ、血が出ていたり、ケガをしている場合は、
各都道府県の鳥獣保護担当部署にご連絡ください。

窓口の
連絡先一覧
はこちらへ



私たちも応援しています!

- | | | | | | | |
|-----------------|------------------|-------------|-------------|-------------------|---------------|--------------|
| (株)アシスト わんわん倶楽部 | アトム(株) | カールツァイス(株) | 学研グループ | 株木建設(株) | | |
| (株)キングジム | サントリーホールディングス(株) | (宗)真如苑 | 東亜建設工業(株) | (株)ニコンイメージングジャパン | | |
| 丸和油脂(株) | 三菱製紙(株) | 森ビル(株) | 横浜ゴム(株) | リコーリース(株) | リズム(株) | |
| (一社)岩手県獣医師会 | (株)共立商会 | 千葉県 | 栃木県 | (株)日本フードエコロジーセンター | (株)メール | 八ヶ岳倶楽部 |
| (公社)愛知県獣医師会 | (株)アイワ徽章 | (公社)秋田県獣医師会 | 奄美いんまや動物病院 | アルスコンサルタンツ(株) | (公社)石川県獣医師会 | (公社)茨城県獣医師会 |
| (公社)大阪市獣医師会 | (公社)大阪府獣医師会 | (株)オオバ | (公社)岡山県獣医師会 | (公社)鹿児島県獣医師会 | カラータ(株) | (公社)北九州市獣医師会 |
| (公社)岐阜県獣医師会 | (公社)京都市獣医師会 | (公社)京都府獣医師会 | 京都野鳥の会 | (公社)神戸市獣医師会 | 寿精版印刷(株) | (公社)滋賀県獣医師会 |
| (公社)静岡県獣医師会 | NPO法人自然環境アカデミー | 神宮司庁 | 全国愛鳥教育研究会 | 高尾霊園犬猫墓地 | (公社)千葉県獣医師会 | 東京環境工科専門学校 |
| (公社)東京都獣医師会 | (公財)動物臨床医学研究所 | 鳥取県 | 富山県鳥獣保護センター | 中津動物病院 | (一社)長野県獣医師会 | (公社)名古屋市獣医師会 |
| (公社)奈良県獣医師会 | (公社)新潟県獣医師会 | 日本印刷(株) | (公社)日本獣医師会 | (一社)日本小動物獣医師会 | (公社)日本動物病院協会 | 日本野鳥の会茨城県 |
| 馬場動物病院 | (一社)兵庫県獣医師会 | (公社)広島県獣医師会 | (株)フジナガ | (有)プレスワールド | 文永堂出版(株) | (株)ベッスイシバン |
| (公財)ホンザキグリーン財団 | (公社)北海道獣医師会 | 宮崎県 | (一社)宮崎県獣医師会 | 武蔵村山ペットメモリアルパーク | 森久保CAメディカル(株) | モリトジャパン(株) |
| (株)モンベル | 野生動物リハビリテーター協会 | 山口県 | (公社)山口県獣医師会 | (公社)横浜市獣医師会 | 和歌山県 | (公社)和歌山県獣医師会 |

共催：(公財)日本鳥類保護連盟 ☎03-5378-5691 (公財)日本野鳥の会 ☎03-5436-2622
NPO 法人野生動物救護獣医師協会 ☎042-529-1279

後援：環境省

